

(様式第10)

厚生労働大臣 殿
開設者名 国立大学法人山形大学
学長 玉手 英 利

形大医経第5161 号
令和 4 年 10 月 4 日

山形大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒990-8560 山形県山形市小白川町1丁目4-12
氏名	国立大学法人山形大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人山形大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒990-9585 山形県山形市飯田西2丁目2番2号
電話(023) 633 - 1122

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科	<input checked="" type="radio"/>	2消化器内科	<input checked="" type="radio"/>	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
1, 4, 5, 6, 7, 8は「内科」で提供している。 9, 10, 11については症状ごとに対応する診療科において提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
3, 7, 8は「外科」で提供している。 4, 5は「6心臓血管外科」で提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	形成外科	3	病理診断科	4	リハビリテーション科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36	0	0	0	601	637

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	400	21	404.9
歯科医師	11	0	11
薬剤師	39	0	39
保健師	0	0	0
助産師	21	0	21
看護師	555	25	571.7
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	3	0	0
管理栄養士	6	0	6

職種	員数
看護補助者	93
理学療法士	16
作業療法士	9
視能訓練士	6
義肢装具士	0
臨床工学士	25
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	47

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	55
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	9
その他の技術員	4
事務職員	67
その他の職員	85

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	33	眼科専門医	10
外科専門医	26	耳鼻咽喉科専門医	17
精神科専門医	9	放射線科専門医	22
小児科専門医	17	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	11	整形外科専門医	24
泌尿器科専門医	24	麻酔科専門医	17
産婦人科専門医	15	救急科専門医	9
		合計	243

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 佐藤 慎哉 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

医療事故等防止対策委員会委員 平成24年4月1日 ~

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	489.5 人	7.2 人	496.7 人
1日当たり平均外来患者数	1201.9 人	49.3 人	1251.2 人
1日当たり平均調剤数		898	剤
必要医師数		122	人
必要歯科医師数		5	人
必要薬剤師数		11	人
必要(准)看護師数		291	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要	
集中治療室	129.5 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 6 床 人工呼吸装置 有 その他の救急蘇生装置 有	心電計 有 心細動除去装置 有 ペースメーカー 有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 173.29 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数 11 床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 49.65 m ² [共用室の場合] 共用する室名			
化学検査室	364.08 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	臨床化学自動分析装置、血糖・A1c測定システム、免疫検査装置、蛋白分画測定装置
細菌検査室	70 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動細菌同定/感受性検査装置、LAMP法測定装置、結核用測定装置
病理検査室	156.16 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動染色装置、凍結組織切片作成装置、密閉式自動固定包埋装置
病理解剖室	80.61 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	感染症対策廃液処理装置、遺体貯蔵庫、解剖台
研究室	10583 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン
講義室	275 m ²	鉄筋コンクリート	室数 1 室	収容定員 224 人
図書室	1195 m ²	鉄筋コンクリート	室数 7 室	蔵書数 93,555 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	78.6	%	逆紹介率	85.7	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		10,539		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,214		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,580		人
	D: 初診の患者の数		15,419		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
栗谷 義樹	地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構理事長	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	無	1
阿彦 忠之	山形県健康福祉部医療統括監		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2
根本 建二	山形大学理事(病院担当)		病院関係業務を担当する理事	有	3
西岡 正樹	山形大学学術研究院准教授		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有	1
佐多 和子	NPO法人あい在宅福祉サービス理事		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本学のホームページに掲載 https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/iryouanzen/	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経カテーテル大動脈弁留置術	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 カテーテルを使用した大動脈弁置換術であり、非常に低侵襲に弁置換術を達成できる。			
医療技術名	心臓再同期療法	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 協調性を失った左心室に対して多点ペーシングにより非同期状態を是正する。			
医療技術名	カテーテル心筋焼灼術(心房中隔穿刺)	取扱患者数	248
当該医療技術の概要 心房中隔穿刺により左心房に到達し、心房細動に対する肺静脈隔離術、WPW症候群に対する副伝導路焼灼術などを行う。			
医療技術名	バルーン肺動脈形成術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 慢性肺血栓塞栓性肺高血圧症に対してカテーテルによるバルーン拡張を行い、低侵襲に肺高血圧を是正する。			
医療技術名	経皮的僧帽弁裂開術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 僧帽弁狭窄症に対してカテーテルによるバルーン拡張を行い低侵襲に弁膜症を治療できる。			
医療技術名	経皮的中隔心筋焼灼術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 冠動脈中隔枝に少量のエタノールを注入することで、閉塞性肥大型心筋症の左室流出路狭窄を改善する。			
医療技術名	着用型自動除細動器による突然死予防	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 着脱が可能な除細動器を使うことで心室細動などの致命的な不整脈を予防する。			
医療技術名	経皮的左心耳閉鎖術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 抗凝固薬の継続が困難な心房細動において、血栓塞栓症を予防するために、カテーテルで左心耳を閉鎖する。			
医療技術名	植込み型除細動器植込み術	取扱患者数	52
当該医療技術の概要 致死性不整脈の症例において、突然死予防のために除細動器を植込みする。			
医療技術名	カテーテル心筋焼灼術(心外膜アプローチ)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 心膜穿刺により心外膜に到達し、心室頻拍に対する焼灼術などを行う。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル挿入	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 心原性ショックを呈した重症心不全に対して、左室内にポンプを留置することで心機能を補助する。			
医療技術名	高速回転アテレクトミー	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 ダイヤモンドの細かい粒を付着させたドリルで、冠動脈石灰化病変を削ることで心臓への血流を改善する。			
医療技術名	タファミジス(商品名:ビンダケル)の導入	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 トランスサイレチン型心アミロイドーシスの患者に対しTTR四量体安定化薬ビンダケルを投与し、病状の進行を抑える。			
医療技術名	経静脈電極抜去術(レーザーを用いないもの)	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 心内に植込みされた癒着した電極リード抜去を開胸することなく低侵襲に抜去する。			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 カテーテルを使用した僧帽弁接合不全修復術であり、低侵襲に僧帽弁閉鎖不全症を改善できる。			
医療技術名	超音波ガイド下経気管支肺生検	取扱患者数	117
当該医療技術の概要 末梢気管支に超音波ガイドで鉗子を挿入し、小病変の生検をより精度を高くして行う。			
医療技術名	超音波ガイド下経気管支縦隔リンパ節生検	取扱患者数	49
当該医療技術の概要 縦隔リンパ節に対し、経気管支的に超音波ガイドを行い、生検を行う。			

医療技術名	難治性ネフローゼにおけるRituximabによる治療	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 従来の治療に不応性の難治性ネフローゼにおいて(特に重度のステロイド依存性のもの)、抗体医薬を用いた治療を行い、ステロイド減量、再発抑制が可能となっている。			
医療技術名	好酸球性食道炎に対するステロイド食道局所治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 指定難病として告知されている好酸球性食道炎に対する吸入型ステロイド製剤の内服治療で、ステロイド全身投与に比し、副作用を格段に抑えることが可能である。			
医療技術名	家族性地中海熱に対するMEFV遺伝子診断と治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 指定難病として告知されている家族性地中海熱の精密診断および治療が可能である。			
医療技術名	カプセル内視鏡を用いた大腸スクリーニング検査	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 大腸内視鏡検査施行困難症例に対し侵襲の少ないカプセル型内視鏡を用いた画像検査が可能である。			
医療技術名	ダブルバルーン内視鏡を用いた小腸疾患の診断と治療	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 通常の内視鏡検査では観察・処置が困難である小腸疾患に対する内視鏡診断および治療が可能である。			
医療技術名	十二指腸乳頭腺腫に対する内視鏡的乳頭切除術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 術中・術後出血や急性膵炎といった合併症のリスクが高く、切除後の胆管・膵管ステント管理を要する高難度の内視鏡手術である。			
医療技術名	膵腫瘍に対する超音波内視鏡(EUS)下エラストグラフィ	取扱患者数	57
当該医療技術の概要 膵腫瘍に対してEUS下にエラストグラフィにて、補助診断する。			
医療技術名	膵腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)	取扱患者数	62
当該医療技術の概要 膵腫瘍に対してEUS下に穿刺して、組織を採取して病理学的に診断する。			
医療技術名	慢性膵炎に対する膵管ステント治療	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 慢性膵炎の膵管狭窄に対して、膵液流出障害を改善するため、膵管内にステントを留置する治療			
医療技術名	術後腸管に対するバルーン内視鏡を用いた膵胆道治療	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 術後腸管は通常内視鏡では胆管膵管造影ができず、バルーン内視鏡を用い、膵胆道処置をする検査である。			
医療技術名	電気水圧衝撃波胆管結石破砕術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 内視鏡的に砕石困難な胆管結石に対して、胆道鏡下に電気水圧衝撃波で砕石を行う高難度の内視鏡手術である。			
医療技術名	超音波内視鏡下膵嚢胞ドレナージ術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 感染性の膵仮性嚢胞に対して、超音波内視鏡下穿刺術で内瘻もしくは外瘻ドレナージを行う高難度の手術である。			
医療技術名	胃静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 胃静脈瘤に対して内視鏡的に硬化剤を注入し静脈瘤消退効果を図る治療。			
医療技術名	肝硬変症例に対するフィブrosキャンを用いた肝硬度診断	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 フィブrosキャンを用いて剪断波による肝硬度測定を行い、非観血的診断を行う検査。			
医療技術名	肝細胞癌に対するマイクロ波焼灼療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 3cmを超える肝細胞癌に対するマイクロ波焼灼にて経皮的に根治が期待できる治療。			
医療技術名	可変式穿刺針による多発肝細胞癌経皮的治療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 サイズの異なる多発肝細胞癌に対して焼灼範囲可変式穿刺針を用いて効果的に焼灼する治療。			
医療技術名	肝硬変症例に対するMRエラストグラフィを用いた肝硬度診断	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 MRI撮影により肝臓の振動波を可視化することで肝線維化の評価ができる検査。			
医療技術名	難治性腹水に対する腹水濾過濃縮再静注法(CART)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 肝硬変などの難治性腹水に対し、穿刺排液した腹水からアルブミンを濃縮し再投与する方法。			

医療技術名	アルコール性脂肪性肝疾患に対するファイブロスキャンを用いた肝脂肪化診断	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 ファイブロスキャンを用いて超音波減衰量(CAP)測定し肝脂肪化を非侵襲的に行う検査。			
医療技術名	血縁同種末梢血幹細胞移植	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 血縁ドナーからの末梢血幹細胞採取後に行う移植			
医療技術名	同種臍帯血移植	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 臍帯血バンクから提供される臍帯血を用いた同種移植。通常の移植よりも厳格な管理を必要とする。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 多発性骨髄腫や化学療法に感受性のある再発・難治性悪性リンパ腫に対する、超強力な化学療法を行うための方策			
医療技術名	血縁・非血縁および自家末梢血幹細胞採取	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 G-CSFまたは化学療法後のG-CSF・プレキサホル投与下において末梢血幹細胞を採取する方法			
医療技術名	脳髄黄色腫症の診断と治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 脳髄黄色腫症の遺伝子診断とケノデオキシコール酸による治療を行っている。			
医療技術名	脳髄黄色腫症の遺伝子診断	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 全国から脳髄黄色腫症患者の遺伝子診断を当該施設で行っている。			
医療技術名	CGM(持続血糖モニタリング)による血糖日内変動の評価	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 糖尿病患者において採血や自己血糖測定では評価が難しかった血糖値の日内変動を持続的に評価している。			
医療技術名	成人成長ホルモン分泌不全患者への成長ホルモン補充療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 県内で発症した成人成長ホルモン分泌不全症への成長ホルモン補充療法を行っている。全症例について難病申請を行っている。			
医療技術名	難治性ネフローゼにおけるRituximabによる治療	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 従来の治療に不応性の難治性ネフローゼにおいて(特に重度のステロイド依存性のもの)、抗体医薬を用いた治療を行い、ステロイド減量、再発抑制が可能となっている。			
医療技術名	シトリン欠損症の中鎖脂肪酸による治療	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 効果的な治療が無かったシトリン欠損症において中鎖脂肪酸経口投与により、効果が得られている。			
医療技術名	先天性中枢性低換気症候群:PHOX2B遺伝子解析による診断	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 依頼された日本全国の症例を対象に先天性中枢性低換気症候群のPHOX2Bによる遺伝子診断を担っている。			
医療技術名	重症新生児肺高血圧に対する一酸化窒素吸入治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 重症の新生児肺高血圧に対して、一酸化窒素吸入治療を併用する事で治療を行う。			
医療技術名	先天性心疾患におけるカテーテルインターベンションによる治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 先天性心疾患において、従来開胸術で行われていた外科的治療をカテーテルによって侵襲が格段に少ない技術を用い、同等の効果をあげている。			
医療技術名	長時間ビデオ脳波によるてんかん診断	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 てんかん発作と脳波異常の関係を明らかにするために、ビデオ記録と脳波測定を同時に行い、適切な診断を提供している。			
医療技術名	性分化疾患の診断と治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 染色体の性と性腺、内性器、外性器の性が一致しない症例の診断管理を行っている。染色体、遺伝子、性分化の知識に加え、社会的・心理的支援などのスキルを要する。			
医療技術名	タンデムマススクリーニング陽性例の診断と管理	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 山形県の新生児マススクリーニング陽性例のうちタンデムマススクリーニング陽性例の精査、診断、管理はすべて当院で行っている。希少疾患が多く、高度の専門性を要する。			
医療技術名	Gaucher病における酵素補充療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 希少疾患であるGaucher病に対する特異的な治療であり、県内唯一の治療機関となっている。			

医療技術名	Prader-Wili症候群の診断と治療	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 Prader-Wili症候群の管理には、内分泌学、遺伝学、心理学における高度な専門的知識が要求される。 社会的な支援が必要なことも多い。			
医療技術名	血縁・非血縁同種骨髄移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 県内唯一の非血縁造血細胞移植認定施設として、小児の造血細胞移植を担っている。			
医療技術名	非血縁者移植骨髄採取術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 県内唯一の骨髄バンク採取認定施設であり、骨髄バンクより依頼があった場合に麻酔科の協力のもと採取を行う。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 悪性固形腫瘍に対する大量化学療法を行うための救援療法			
医療技術名	自家末梢血幹細胞採取	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 化学療法後のG-CSF、プレリキサホル投与下で末梢血幹細胞を採取する方法			
医療技術名	大量化学療法後神経芽腫患児への抗GD2抗体治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 高リスク群の神経芽腫患児への特異的な治療。2021年秋から保険収載され、当院当科が県内唯一の治療機関となっている。			
医療技術名	遺伝性色素異常症の遺伝子診断	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 次世代シーケンサーを使用して、約60の原因遺伝子を網羅的に解析する。			
医療技術名	神経内分泌腺腫瘍の診断と治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 内分泌学的診断とオクトレオスキャンによる局在診断、ソマトスタチン受容体作動薬による治療を行っている。			
医療技術名	密封小線源(RALS)	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 放射性物質(Ir-192)を専用アプリーターを用いて腫瘍近傍に留置し、数分間停留させることで体内の腫瘍に集中的かつ効率的に照射する方法			
医療技術名	強度変調放射線治療(IMRT)	取扱患者数	80
当該医療技術の概要 照射野の形状を変化させながら複数のビームを用いて、腫瘍の形状に合わせて放射線治療を行う方法			
医療技術名	定位放射線治療(SRT)	取扱患者数	43
当該医療技術の概要 小さく限局した腫瘍に対し、三次元的に細いビームを複数方向から照射する方法			
医療技術名	放射性ヨード内用療法(I-131内用療法)	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 甲状腺癌がヨードを取り込む性質を有することを利用して、I-131(ヨード)カプセルを内服することで施行する放射線治療。 甲状腺癌や甲状腺機能亢進症で用いられる。			
医療技術名	重粒子線治療	取扱患者数	330
当該医療技術の概要 重粒子(炭素イオン)線を光の速度の約70%まで加速させて、がん病巣に照射する放射線治療。			
医療技術名	胃癌に対するロボット支援手術	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 胃癌に対して手術支援ロボットを用いて胃切除術を行っている。			
医療技術名	腹腔鏡内視鏡合同手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 胃粘膜下腫瘍に対し、腹腔鏡と内視鏡の両者を用いた胃部分切除術を行っている。			
医療技術名	食道癌に対する三剤併用術前化学療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 進行食道癌に対し、フルオロウラシル、シスプラチン、ドセタキセルの三剤を用いた術前化学療法を行っている。			
医療技術名	大腸癌に対するロボット支援手術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 大腸癌に対して手術支援ロボットを用いて結腸切除術を行っている。			
医療技術名	直腸癌に対する経肛門的直腸間膜切除術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 直腸癌に対して通常の操作に加え、肛門からの鏡視下操作が加わった手術を行っている。			

医療技術名	膵癌に対する術前化学療法	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 切除可能膵癌に対し、ゲムシタビン+S-1を併用した術前化学療法を行っている。			
医療技術名	乳癌に対するエキスパンダーとインプラントを用いた乳房再建	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 エキスパンダーとインプラントを用いた乳房再建術を行っている。			
医療技術名	遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する遺伝子検査と予防的乳房切除術を行っている。			
医療技術名	切除不能膵癌に対するコンバージョン手術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 切除不能な膵癌に対し、化学療法及び化学放射線療法が奏効した場合に根治手術を行っている。			
医療技術名	遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)に対する遺伝子検査及び遺伝相談	取扱患者数	33
当該医療技術の概要 HBOCが疑われる患者に遺伝子検査及び遺伝相談を行っている。			
医療技術名	ステントグラフト内挿術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 急性大動脈解離に対して、開胸することなく、低侵襲に治療できる。			
医療技術名	急性大動脈解離手術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 スタンフォードA型急性大動脈解離に、緊急手術を行い救命する。			
医療技術名	僧帽弁形成術	取扱患者数	29
当該医療技術の概要 僧帽弁閉鎖不全症に対して、自己弁を温存し、形成術を行っている。			
医療技術名	ハイブリット手術室を使用した脳動静脈奇形手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 ハイブリット手術室を用いて、術中血管撮影を行い、脳動静脈奇形を治療するもの			
医療技術名	ハイブリット手術室を使用した脳動脈瘤手術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 ハイブリット手術室を用いて、術中血管撮影を行い、脳動脈瘤治療を行うもの			
医療技術名	術中MRI室を使用した脳腫瘍摘出術	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 術中MRI室を用いて、各種神経モニタリングを行いながら、脳腫瘍の手術を行うもの			
医療技術名	同種骨移植	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 2000年2月より施設内にボーンバンクを設立し、自家骨や人工骨で対応困難な広範囲骨欠損例に対して加温滅菌処理同種骨を用いて関節機能再建を行う。			
医療技術名	自家培養軟骨移植術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 膝関節軟骨欠損に対し、患者自身から軟骨を採取、培養して移植を行う。			
医療技術名	不妊症・不育症の原因精査と治療	取扱患者数	75
当該医療技術の概要 内科と産婦人科が協力し、内分泌的な診断と治療を県内不妊症・不育症患者に提供している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 子宮体癌に対してロボット支援腹腔鏡下手術を行っている。			
医療技術名	広汎子宮頸部摘出術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 妊孕性温存希望のある初期の子宮頸がんに対して子宮頸部のみを摘出する広汎子宮頸部摘出術を行っている。			
医療技術名	リスク低減卵管卵巣摘出術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して遺伝子検査およびカウンセリングと卵管癌・卵巣癌発症の予防のためリスク低減卵管卵巣摘出術を行っている。			

医療技術名	骨盤除臓術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 主に再発子宮頸癌患者に対して骨盤除臓術を外科、泌尿器科と連携して行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下仙骨腔固定術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 骨盤臓器脱の患者に対して腹腔鏡下仙骨腔固定術を行っている。			
医療技術名	NIPTに関する遺伝カウンセリングと検査	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 出生前遺伝学的検査であるNIPTを希望する夫婦を県内全域から受け入れ、遺伝カウンセリングを行った上で検査を施行している。			
医療技術名	胎児奇形の周産期管理	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 妊婦健診で胎児の構造異常を疑われた妊婦を県内全域から受け入れ、小児科、小児外科、脳外科など他科との共同して周産期管理を行っている。			
医療技術名	水疱性角膜症に対する角膜内皮移植術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 国内ドナー角膜をマイクロケラトームで加工することにより、角膜内皮移植術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腎部分切除術	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 小径腎細胞癌に対して手術支援ロボットを用いて腹腔鏡下に腎部分切除を施行するもの。			
医療技術名	ロボット支援根治的膀胱全摘除術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 筋層浸潤性膀胱癌に対して手術支援ロボットを用いて腹腔鏡下に根治的膀胱全摘除術を施行するもの。			
医療技術名	ロボット支援腎盂形成術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 腎尿管移行部狭窄による水腎症に対して手術支援ロボットを用いて腹腔鏡下に腎盂形成術を施行するもの			
医療技術名	血液型不適合腎移植	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 血液型不適合ドナーからの腎移植			
医療技術名	MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 事前に撮影したMRI画像を、前立腺生検中の超音波の画像に融合させることによって疑い病変から組織を的確に採取するもの			
医療技術名	乳癌に対する人工乳房を用いた乳房再建術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 乳癌による乳房切除後の欠損に対し、組織拡張器で皮膚を伸展させたのちにシリコンインプラントを用いた乳房再建を行っている			
医療技術名	乳癌に対する自家組織移植による乳房再建術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 乳癌による乳房切除後の欠損に対し、血管柄付き遊離組織移植を主とした乳房再建術を行っている			
医療技術名	切除不能・転移性重症筋無力症合併胸腺腫への化学療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 胸腺腫は稀な腫瘍であり、化学療法のエビデンスや実績には限りがあり経験の無い施設が多い。その中でも指定難病であり重症筋無力症併発例への化学療法は困難を極める。			
医療技術名	がんゲノムプロファイリング検査	取扱患者数	160
当該医療技術の概要 がん遺伝子パネル検査を行うことで、がん治療に有用な遺伝子変異を検出する。がん組織を用いたパネル検査や血漿検体からのパネル検査などあり、新規治療薬の臨床試験に登録を行うことで新たな治療薬の開発を行っている。			
医療技術名	germline panel検査	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 本邦でも契約している施設が少ないgermline panel検査についても積極的に情報提供を行い、希望症例へ施行している。			
医療技術名	神経内分泌腺腫瘍の診断と治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 内分泌学的診断とオクトレオスキャンによる局在診断、ソマトスタチン受容体作動薬による治療を行っている。			
医療技術名	頭頸部がんに対する超選択的動注化学放射線同時併用療法(RADPLAT)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 癌の栄養血管を介して大量の抗がん剤を投与しながら全身へ移行する抗がん剤を中和する効果的で副作用の少ない化学療法と放射線治療を併用することにより有効な殺細胞効果が期待される治療法。			

医療技術名	中耳疾患に対する経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)	取扱患者数	168
当該医療技術の概要 当院耳鼻咽喉科が世界に先駆けて開発した、低侵襲で安全性の高い、機能温存をコンセプトとした手術手技。			
医療技術名	ウイルス性顔面神経麻痺患者に対する内視鏡下顔面神経再生術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 重症のウイルス性顔面神経麻痺患者を対象にした、内視鏡下に顔面神経管の解放と神経再生因子の投与を行う治療法			
医療技術名	甲状腺腫瘍に対する内視鏡下甲状腺手術(VANS)	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 一般的な外切開による甲状腺手術に比較して、切開創が目立たず審美的に優れるだけでなく、拡大視により安全な操作が可能となる手術術式。			
医療技術名	頭頸部がんに対する超選択的動注化学放射線同時併用療法(RADPLAT)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 癌の栄養血管を介して大量の抗がん剤を投与しながら全身へ移行する抗がん剤を中和する効果的で副作用の少ない化学療法と放射線治療を併用することにより有効な殺細胞効果が期待される治療法。			
医療技術名	鏡視下咽喉頭手術(TOVS)	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 経口的な内視鏡操作で咽喉頭癌、喉頭癌を摘出する、従来の外切開による手術に比較して低侵襲な治療法である。			
医療技術名	精神疾患合併妊産婦の診断と治療	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 精神疾患を合併した妊婦や産後にうつ病を発症した経産婦の診断と治療を行っている			
医療技術名	小学生以下の児童の発達障害・精神疾患の診断と治療	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 小学生以下の児童の発達障害・精神疾患の診断と治療を行っている。			
医療技術名	重篤な身体疾患を合併した精神疾患患者の入院管理	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 手術や専門治療を必要とする身体疾患を合併した精神疾患患者の入院管理を行っている。			
医療技術名	重症の摂食障害患者の診断と治療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 BMI=15未満などの重症の摂食障害患者の診断と治療を行っている。			
医療技術名	非典型的な認知症の画像診断	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 非典型的な症状を呈する認知症のSPECT、アミロイドPETなどの画像診断を行っている。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	115
取扱い患者数の合計(人)	2578

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	171	ウィルソン病	2
2	筋萎縮性側索硬化症	32	172	低ホスファターゼ症	0
3	脊髄性筋萎縮症	3	173	VATER症候群	0
4	原発性側索硬化症	0	174	那須・ハコフ病	0
5	進行性核上性麻痺	8	175	ウィーバー症候群	0
6	パーキンソン病	104	176	コフィン・ローリー症候群	0
7	大脳皮質基底核変性症	2	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
8	ハンチントン病	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
9	神経有棘赤血球症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
10	シャルコー・マリー・トウース病	2	180	ATR-X症候群	0
11	重症筋無力症	67	181	クルーゾン症候群	0
12	先天性筋無力症候群	2	182	アペール症候群	0
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	52	183	ファイファー症候群	0
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	9	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
15	封入体筋炎	5	185	コフィン・シリシ症候群	0
16	クロー・深瀬症候群	1	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
17	多系統萎縮症	17	187	歌舞伎症候群	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	41	188	多脾症候群	0
19	ライソゾーム病	1	189	無脾症候群	1
20	副腎白質ジストロフィー	0	190	鯉耳腎症候群	0
21	ミトコンドリア病	5	191	ウェルナー症候群	0
22	もやもや病	56	192	コケイン症候群	0
23	プリオン病	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	2
24	亜急性硬化性全脳炎	0	194	ソトス症候群	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	195	ヌーナン症候群	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
27	特発性基底核石灰化症	1	197	1p36欠失症候群	0
28	全身性アミロイドーシス	17	198	4p欠失症候群	0
29	ウルリッヒ病	0	199	5p欠失症候群	0
30	遠位型ミオパチー	3	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
31	ベスレムミオパチー	0	201	アンジェルマン症候群	0
32	自己食空胞性ミオパチー	0	202	スミス・マギニス症候群	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	203	22q11.2欠失症候群	0
34	神経線維腫症	23	204	エマヌエル症候群	0
35	天疱瘡	19	205	脆弱X症候群関連疾患	0
36	表皮水疱症	1	206	脆弱X症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	8	207	総動脈幹遺残症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	208	修正大血管転位症	0
39	中毒性表皮壊死症	0	209	完全大血管転位症	1
40	高安静脈炎	21	210	単心室症	0
41	巨細胞性動脈炎	1	211	左心低形成症候群	0
42	結節性多発動脈炎	6	212	三尖弁閉鎖症	2
43	顕微鏡的多発血管炎	37	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	12	215	ファロー四徴症	3
46	悪性関節リウマチ	5	216	両大血管右室起始症	1
47	バージャー病	7	217	エプスタイン病	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	218	アルポート症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	163	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	69	220	急速進行性糸球体腎炎	4
51	全身性強皮症	59	221	抗糸球体基底膜腎炎	0
52	混合性結合組織病	36	222	一次性ネフローゼ症候群	29
53	シェーグレン症候群	19	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0
54	成人スチル病	18	224	紫斑病性腎炎	1
55	再発性多発軟骨炎	4	225	先天性腎性尿崩症	0
56	ベーチェット病	67	226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
57	特発性拡張型心筋症	93	227	オスラー病	2
58	肥大型心筋症	18	228	閉塞性細気管支炎	0
59	拘束型心筋症	0	229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
60	再生不良性貧血	12	230	肺胞低換気症候群	0
61	自己免疫性溶血性貧血	0	231	$\alpha 1$ -アンチトリプシン欠乏症	0
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1	232	カーニー複合	0
63	特発性血小板減少性紫斑病	19	233	ウォルフラム症候群	1
64	血栓性血小板減少性紫斑病	0	234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0
65	原発性免疫不全症候群	12	235	副甲状腺機能低下症	1
66	IgA腎症	29	236	偽性副甲状腺機能低下症	0
67	多発性嚢胞腎	26	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0
68	黄色靱帯骨化症	3	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2

4 指定難病についての診療

69	後縦靭帯骨化症	11	239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0
70	広範脊柱管狭窄症	1	240	フェニルケトン尿症	5
71	特発性大腿骨頭壊死症	43	241	高チロシン血症1型	0
72	下垂体性ADH分泌異常症	5	242	高チロシン血症2型	0
73	下垂体性TSH分泌亢進症	1	243	高チロシン血症3型	0
74	下垂体性PRL分泌亢進症	5	244	メープルシロップ尿症	0
75	クッシング病	8	245	プロピオン酸血症	1
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0	246	メチルマロン酸血症	1
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	23	247	イソ吉草酸血症	0
78	下垂体前葉機能低下症	93	248	グルコーストランスポーター1欠損症	0
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0	249	グルタル酸血症1型	0
80	甲状腺ホルモン不応症	0	250	グルタル酸血症2型	0
81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2	251	尿素サイクル異常症	0
82	先天性副腎低形成症	0	252	リジン尿性蛋白不耐症	0
83	アジソン病	0	253	先天性葉酸吸収不全	0
84	サルコイドーシス	59	254	ボルフィリン症	0
85	特発性間質性肺炎	65	255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0
86	肺動脈性肺高血圧症	15	256	筋型糖原病	0
87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0	257	肝型糖原病	0
88	慢性血栓性肺高血圧症	21	258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0
89	リンパ管筋腫症	4	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
90	網膜色素変性症	32	260	システロール血症	0
91	パッド・キアリ症候群	0	261	タンジール病	0
92	特発性門脈圧亢進症	3	262	原発性高カイロミクロン血症	0
93	原発性胆汁性肝硬変	51	263	脳腫黄色腫症	1
94	原発性硬化性胆管炎	4	264	無βリポタンパク血症	0
95	自己免疫性肝炎	5	265	脂肪萎縮症	0
96	クローン病	91	266	家族性地中海熱	1
97	潰瘍性大腸炎	174	267	高IgD症候群	0
98	好酸球性消化管疾患	3	268	中條・西村症候群	0
99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
101	腸管神経節細胞減少症	0	271	強直性脊椎炎	21
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
103	OFC症候群	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	1
104	コステロ症候群	0	274	骨形成不全症	1
105	チャージ症候群	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
106	クリオピリン関連周期熱症候群	0	276	軟骨無形成症	2
107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	13	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
108	TNF受容体関連周期性症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
109	非典型溶血性尿毒症症候群	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
110	ブラウ症候群	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
111	先天性ミオパチー	1	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
113	筋ジストロフィー	8	283	後天性赤芽球癆	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	285	ファンコニ貧血	0
116	アトピー性脊髄炎	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
117	脊髄空洞症	2	287	エプスタイン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
119	アイザックス症候群	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	0
120	遺伝性ジストニア	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
121	神経フェリチン症	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	292	総排泄腔外反症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	293	総排泄腔遺残	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
126	ペリー症候群	0	296	胆道閉鎖症	2
127	前頭側頭葉変性症	3	297	アラジール症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	298	遺伝性膝炎	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	299	嚢胞性線維症	0
130	先天性無痛無汗症	0	300	IgG4関連疾患	8
131	アレキサンダー病	0	301	黄斑ジストロフィー	0
132	先天性核上性球麻痺	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0

4 指定難病についての診療

133	メビウス症候群	0	303	アッシャー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	304	若年発症型両側性感音難聴	1
135	アイカルディ症候群	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
136	片側巨脳症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	40
137	限局性皮質異形成	1	307	カナバン病	0
138	神経細胞移動異常症	0	308	進行性白質脳症	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	309	進行性ミオクローヌステんかん	0
140	ドラベ症候群	0	310	先天異常症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
145	ウエスト症候群	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
146	大田原症候群	0	316	カルニチン回路異常症	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	317	三頭酵素欠損症	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	318	シリン欠損症	2
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
150	環状20番染色体症候群	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
151	ラスムッセン脳炎	0	321	非ケトシス型高グリシン血症	0
152	PCDH19関連症候群	1	322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	1
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
156	レット症候群	0	326	大理石骨病	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
158	結節性硬化症	9	328	前眼部形成異常	0
159	色素性乾皮症	2	329	無虹彩症	0
160	先天性魚鱗癬	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	5
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	13	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
163	特発性後天性全身性無汗症	2	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
164	眼皮皮膚白皮症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜症	0	335	ネフロン癆	0
166	弾性線維性仮性黄色腫	1	336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
167	マルファン症候群	5	337	ホモシスチン尿症	0
168	エーラス・ダンロス症候群	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
169	メンケス病	0			
170	オクシピタル・ホーン症候群	0			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	1996
合計患者数(人)	2050

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
歯科外来診療環境体制加算2	ハイリスク妊娠管理加算
歯科診療特別対応連携加算	ハイリスク分娩管理加算
特定機能病院入院基本料(一般病棟)	後発医薬品使用体制加算2
特定機能病院入院基本料(精神病棟)	病棟薬剤業務実施加算1
救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算2
超急性期脳卒中加算	データ提出加算2及び4
診療録管理体制加算1	入退院支援加算3
医師事務作業補助体制加算1	入退院支援加算2
急性期看護補助体制加算(25対1)(5割以上)	地域連携診療計画加算
看護職員夜間12対1配置加算1	入院時支援加算
看護補助加算2(精神病棟)(50:1)	注8に掲げる総合機能評価加算
療養環境加算	認知症ケア加算2
重症者等療養環境特別加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
無菌治療室管理加算1	精神疾患診療体制加算
無菌治療室管理加算2	精神科急性期医師配置加算(2のイ)
緩和ケア診療加算	地域医療体制確保加算
個別栄養食事管理加算	地域歯科診療支援病院入院加算
精神科身体合併症管理加算	特定集中治療室管理料2
精神科リエゾンチーム加算	特定集中治療室管理料の注2に掲げる小児加算
摂食障害入院医療管理加算	早期栄養介入管理加算
栄養サポートチーム加算	ハイケアユニット入院医療管理料1
医療安全対策加算1	新生児特定集中治療室管理料1
感染防止対策加算1	新生児治療回復室入院医療管理料
感染防止対策地域連携加算	小児入院医療管理料2
抗菌薬適正使用支援加算	プレイルーム加算
患者サポート体制充実加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
喘息治療管理料	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
糖尿病合併症管理料	網膜再建術
がん性疼痛緩和指導管理料	人工中耳植込術
がん患者指導管理料イ	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
がん患者指導管理料ロ	内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)
がん患者指導管理料ハ	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
がん患者指導管理料ニ	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
外来緩和ケア管理料	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
糖尿病透析予防指導管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(乳がんセンチネルリンパ節加算1)
小児運動器疾患指導管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(センチネルリンパ節生検(併用))
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(乳がんセンチネルリンパ節加算2)
婦人科特定疾患治療管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(センチネルリンパ節生検(単独))
腎代替療法指導管理料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
外来放射線照射診療料	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
がん治療連携計画策定料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
肝炎インターフェロン治療計画料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ハイリスク妊産婦連携指導料1	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)

ハイリスク妊産婦連携指導料2	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
薬剤管理指導料	胸腔鏡下弁形成術
医療機器安全管理料1	経カテーテル大動脈弁置換術
医療機器安全管理料2	胸腔鏡下弁置換術
医療機器安全管理料(歯科)	経皮的僧帽弁クリップ術
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	経皮的中隔心筋焼灼術
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
遺伝学的検査	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
骨髄微小残存病変量測定	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
BRCA1/2遺伝子検査	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
がんゲノムプロファイリング検査	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
先天性代謝異常症検査	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
検体検査管理加算(IV)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
国際標準検査管理加算	補助人工心臓
遺伝カウンセリング加算	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胎児心エコー法	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ヘッドアップティルト試験	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術

長期継続頭蓋内脳波検査	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
長期脳波ビデオ同時記録検査1	腹腔鏡下肝切除術
単線維筋電図	生体部分肝移植術
脳磁図(その他のもの)	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
神経学的検査	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
補聴器適合検査	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
コンタクトレンズ検査料1	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
小児食物アレルギー負荷検査	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内服・点滴誘発試験	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
経気管支凍結生検法	同種死体腎移植術
画像診断管理加算1	生体腎移植術
画像診断管理加算2	膀胱水圧拡張術
画像診断管理加算3	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ポジトロン断層撮影	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
CT撮影及びMRI撮影	人工尿道括約筋植込・置換術
冠動脈CT撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
血流予備量比コンピューター断層撮影	腹腔鏡下仙骨腫固定術
心臓MRI撮影加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
乳房MRI撮影加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
小児鎮静下MRI撮影加算	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
頭部MRI撮影加算	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する乳房切除術に限る)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
外来化学療法加算1	輸血管理料 I
無菌製剤処理料	輸血適正使用加算
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	貯血式自己血輸血管理体制加算
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	コーディネート体制充実加算
運動器リハビリテーション料(I)	自己生体組織接着剤作成術
呼吸器リハビリテーション料(I)	自己クリオプレシピレート作製術(用手法)

がん患者リハビリテーション料	同種クリオプレシピテート作製術
集団コミュニケーション療法料	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
歯科口腔リハビリテーション料2	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
経頭蓋磁気刺激療法	歯周組織再生誘導手術
児童思春期精神科専門管理加算	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
認知療法・認知行動療法1	歯根端切除手術の注3
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	麻酔管理料(Ⅰ)
医療保護入院等診療料	麻酔管理料(Ⅱ)
口腔粘膜処置	放射線治療専任加算
レーザー機器加算	外来放射線治療加算
エタノールの局所注入(甲状腺)	遠隔放射線治療計画加算
エタノールの局所注入(副甲状腺)	高エネルギー放射線治療
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	1回線量増加加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	強度変調放射線治療(IMRT)
手術用顕微鏡加算	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	体外照射呼吸性移動対策加算
CAD/CAM冠	定位放射線治療
歯科技工加算1及び2	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
センチネルリンパ節加算	粒子線治療
四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	粒子線治療適応判定加算
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	粒子線治療医学管理加算
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	画像誘導密封小線源治療加算
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	保険医療機関間の連携による病理診断
椎間板内酵素注入療法	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	病理診断管理加算2
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	デジタル病理画像による病理診断
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	悪性腫瘍病理組織標本加算
角膜移植術(内皮移植加算)	口腔病理診断管理加算2
羊膜移植術	クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
細胞外小胞を介した胆道系恒常性維持システムとその破綻による肝疾患病態形成	上野 義之	第2内科	2,500,000	補委 日本学術振興会
内毛細胞・蝸牛神経間シナプスをターゲットとした聴覚再生治療の新規開発	欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	4,380,000	補委 日本学術振興会
EGFRキナーゼ阻害剤を用いた膠芽腫治療戦略を新規アプローチで「再」開発する	鈴木 修平	腫瘍内科	700,000	補委 日本学術振興会
脂肪性肝疾患における肝再生機構の解明	星川 恭子	第2内科	599,633	補委 日本学術振興会
遺伝性色素異常症の遺伝子解析システムの確立およびゲノム編集技術を用いた機能解析	岡村 賢	皮膚科	700,000	補委 日本学術振興会
レビー小体病の病態修飾に関与する遺伝子の同定	小林 良太	精神科	700,000	補委 日本学術振興会
オキシトシンとバゾプレシン機能が愛着様式とパーソナリティ傾向に与える影響	大谷 浩一	精神科	2,600,000	補委 日本学術振興会
石灰化大動脈弁狭窄症の発症抑制における長寿遺伝子Sirt-1の役割解明	渡邊 哲	第1内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
炎症後色素沈着の病態解明と新規治療法の開発:モデルマウスを使用した解析	鈴木 民夫	皮膚科	900,000	補委 日本学術振興会
分子署名に基づいた血中循環腫瘍細胞の細分類化と腫瘍集学的治療の精密化への臨床応用	元井 冬彦	第一外科	800,000	補委 日本学術振興会
周術期管理における低酸素応答と免疫応答を指標とした生体侵襲回復能の評価	川前 金幸	麻酔科	1,000,000	補委 日本学術振興会
新規免疫療法治療効果予測因子としてのGPI-80を用いたMDSCの発現・機能解析	加藤 智幸	泌尿器科	1,100,000	補委 日本学術振興会
分子サブタイプとメタボロミクスに基づく尿路上皮癌の診断・治療標的分子の探索	土谷 順彦	泌尿器科	600,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
サリバオミクス解析による唾液を用いた口腔癌スクリーニングに関する研究	飯野 光喜	歯科口腔外科	900,000	補委 日本学術振興会
小児がん患者における鉄代謝調節因子の遺伝的背景の解明	目黒 亨	小児科	1,000,000	補委 日本学術振興会
肥満、代謝異常によるRNA転写後制御の変調を介した新しい大腸発がん機序の解明	佐々木 悠	第2内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
高血圧性心疾患発症における1次線毛構成タンパク質NPHP4の機能解明	高橋 大	第1内科	900,000	補委 日本学術振興会
心腎症候群発症における腎尿管由来セマフォリン3Cの機能解明	渡辺 昌文	第1内科	700,000	補委 日本学術振興会
本邦における遺伝性巣状分節性糸球体硬化症の原因遺伝子変異プロファイルの確立	橋本 多恵子	小児科	1,000,000	補委 日本学術振興会
The role of inflammasome in steroid refractory graft-versus-host disease after allogeneic stem cell transplantation	東梅 友美	第3内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
膠芽腫の再発形式に関与する幹細胞マーカー発現変化の解明	園田 順彦	脳神経外科	1,100,000	補委 日本学術振興会
低侵襲な中耳粘膜再生技術による中耳真珠腫根治へ向けての研究	伊藤 吏	耳鼻咽喉科	900,000	補委 日本学術振興会
亜鉛徐放性チタンと歯髄幹細胞の骨形成メカニズムの解明と顎骨再建への応用	遊佐 和之	歯科口腔外科	900,000	補委 日本学術振興会
心不全・不整脈の悪性サイクルの病態解明と治療介入	有本 貴範	第1内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
遠隔診療システムを用いた多職種ネットワーク心臓リハビリの確立	沓澤 大輔	第1内科	800,000	補委 日本学術振興会
機械学習を用いた潰瘍性大腸炎の腸内細菌叢解析～病態解明と治療反応予測を目指して～	八木周	第2内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
上部消化管穿孔への非放射性Xe・Kr気体造影剤を使用したCT撮影法の基礎的検討	平賀 利匡	放射線診断科	100,000	補委 日本学術振興会
膵癌organoidを用いた進行度特異的な遺伝子解析および診断マーカーの探索研究	角田 道彦	第2内科	1,300,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腭液内cfDNAを用いたゲノムシーケンスによるIPMN組織亜型の分子病理学的解析	小林 敏一	第2内科	1,400,000	補委 日本学術振興会
オルガノイド培養による原発性硬化性胆管炎の細胞外小胞を介した新規炎症機序の解明	勝見 智大	第2内科	1,500,000	補委 日本学術振興会
SASH1遺伝子変異による遺伝性色素異常症:モデルマウスの作製と機能解析	荒木 勇太	皮膚科	1,000,000	補委 日本学術振興会
人工心肺で生じる回路圧上昇に白血球由来細胞外DNAが関与しているかどうかの検討	八島 望	麻酔科	100,000	補委 日本学術振興会
腎癌におけるアドレナリン受容体B2の機能解析と新規治療標的の開発	菅野 秀典	泌尿器科	1,800,000	補委 日本学術振興会
腎癌におけるアミノ酸トランスポーターを標的とした新規治療標的の開発	山岸 敦史	泌尿器科	1,800,000	補委 日本学術振興会
HMGB1を用いたhidden hearing lossにおける治療法の開発	寺田 小百合	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委 日本学術振興会
未熟児網膜症の疫学研究(多施設研究)	武田 祐介	眼科	400,000	補委 日本学術振興会
山形県における増殖糖尿病網膜症患者長期経過観察システムとデータベースの構築	西 勝弘	眼科	800,000	補委 日本学術振興会
肝細胞増殖因子の増強により皮弁生着成績の向上を図る実験的研究	菅 剛史	形成外科	700,000	補委 日本学術振興会
Cochlear synaptopathyに対する新規聴覚再生治療法の確立	欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	4,500,000	補委 日本学術振興会
乳がん骨転移の潜在期において骨微小環境でがん細胞が生存するメカニズムの解析	二口 充	病理部	1,100,000	補委 日本学術振興会
濾胞樹状細胞を標的とした抗エストロゲン薬によるIgG4関連疾患の新規治療戦略	大江 倫太郎	病理部	1,100,000	補委 日本学術振興会
性差に注目したフレイル・酸化ストレス・炎症に関連する軽度認知障害の新規病態解明	太田 康之	第3内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
再発難治小児若年者リンパ芽球性リンパ腫の腫瘍特性解析	三井 哲夫	小児科	1,200,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
散発性若年発症大腸癌におけるゲノム変化の解明と新規バイオマーカーの同定	梅原 松樹	第2内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
間葉系幹細胞由来の細胞外小胞の保存法の確立と急性肝不全に対する新規治療法の開発	芳賀 弘明	第2内科	1,600,000	補委 日本学術振興会
膵液内cfDNAを用いたゲノムシーケンスによる壁に結節を伴うIPMNの解析	鈴木 裕也	第2内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
同種造血幹細胞移植後のGVHDにおける腎障害発症メカニズムの解明	市川 一誠	第1内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
家兔関節炎モデルにおける抗ポドプラニン抗体による滑膜炎抑制効果の検討	本間 龍介	リハビリテーション部	1,200,000	補委 日本学術振興会
グルタチオン合成経路に着目した薬剤耐性卵巣癌に対する新規治療戦略の確立	清野 学	産科婦人科	1,100,000	補委 日本学術振興会
ポリアミン代謝経路を標的とした卵巣癌の新規治療法の開発	太田 剛	産科婦人科	1,400,000	補委 日本学術振興会
メタボローム解析に基づいた卵巣癌腹水におけるがん微小環境の解明と新規治療開発	永瀬 智	産科婦人科	1,300,000	補委 日本学術振興会
感音難聴の病態に基づいた新規治療法の探索 -衝撃波による内耳障害モデルでの検討-	小泉 優	耳鼻咽喉科	1,400,000	補委 日本学術振興会
聴神経・シナプス再生の細胞内メカニズムの解明	天野 彰子	耳鼻咽喉科	900,000	補委 日本学術振興会
難聴治療の挑戦 -内耳における小胞体・リン脂質代謝酵素および再生因子の解析-	松井 祐興	耳鼻咽喉科	800,000	補委 日本学術振興会
123I-MIBGを用いた肺血管内皮機能からみた肺高血圧患者予後評価における検討	加藤 重彦	第1内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
特発性正常圧水頭症の錐体路機能の探索及び評価と治療反応性の予測	猪狩 龍佑	第3内科	3,000,000	補委 日本学術振興会
オキシトシン機能と自閉スペクトラム症傾向が愛着関係とうつ病親和性性格に与える影響	白田 稔則	精神科	700,000	補委 日本学術振興会
畳み込みニューラルネットワークを用いた重粒子線治療の適応判断システムの開発	萩原 靖倫	放射線治療科	1,100,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
非機能性下垂体腺腫の血流動態に基づいた内分泌学的予後の予測	伊藤 美以子	脳神経外科	900,000	補委 日本学術振興会
HFpEF治療におけるキサンチン酸化還元酵素(XOR)の有効性の検討	渡部 賢	第1内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
病的心肥大におけるセマフォリン受容体プレキシンB1の機能解明	大瀧 陽一郎	第1内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
COPDにおける鉄代謝に着目した新たな治療法の確立	佐藤 正道	第1内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
喫煙曝露誘導肺気腫モデルにおけるTARC/CCL17の機能解明	佐藤 建人	第1内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
脳神経外科手術の術中リアルタイム脳表組織酸素飽和度モニタリングシステムの開発	佐藤 慎治	脳神経外科	1,200,000	補委 日本学術振興会
淡明型腎細胞癌における5番染色体長腕伸長の生物学的意義について	成澤 貴史	泌尿器科	1,200,000	補委 日本学術振興会
加齢卵の小胞体ストレスターゲットング治療の確立	竹原 功	産科婦人科	1,200,000	補委 日本学術振興会
ぶどう膜悪性黒色腫に対するp53活性化誘導を基軸とした新規治療薬の開発	富樫 敬太	眼科	2,000,000	補委 日本学術振興会
がん治療関連心筋障害の早期診断に左房ストレインおよびストレインレートは有用か	鈴木 康太	小児科	900,000	補委 日本学術振興会
病的心肥大発症におけるHECT型ユビキチン転移酵素HECW2の機能解明	後藤 準	第1内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
				補委

計 69

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Goto J, Otaki Y, Watanabe T, Watanabe M.	第一内科	The Role of HECT-Type E3 Ligase in the Development of Cardiac Disease.	Int J Mol Sci. 2021 Jun 4;22(11):6065.	Review
2	Toshima T, Hirayama A, Watanabe T, Goto J, Kobayashi Y, Otaki Y, Wanezaki M, Nishiyama S, Kutsuzawa D, Kato S, Tamura H, Arimoto T, Takahashi H, Shishido T, Konta T, Watanabe M.	第一内科	Unmet needs for emergency care and prevention of prehospital death in acute myocardial infarction.	J Cardiol. 2021 Jun;77(6):605-612.	Original Article
3	Sato K, Inoue S, Ishibashi Y, Ota T, Murano H, Furuyama K, Yang S, Machida H, Nakano H, Sato M, Nemoto T, Nishiwaki M, Yamauchi K, Igarashi A, Watanabe M.	第一内科	Association between low mean corpuscular hemoglobin and prognosis in patients with exacerbation of chronic obstructive pulmonary disease.	Respir Investig. 2021 Jul;59(4):498-504. doi: 10.1016/j.resinv.2021.01.006.	Original Article
4	Otaki Y, Watanabe T, Konta T, et al.	第一内科	One-year change in plasma volume and mortality in the Japanese general population: An observational cohort study.	PLoS One. 2021 Jul 13;16(7):	Original Article
5	Takahashi T, Watanabe T, Otaki Y, et al.	第一内科	Prognostic significance of the controlling nutritional (CONUT) score in patients with acute coronary syndrome.	Heart Vessels. 2021 Aug;36(8):1109-1116.	Original Article
6	Takahashi T, Watanabe T, Tamura H, et al.	第一内科	The impact of physical activity on cardiovascular mortality in the general population.	EXCLI J. 2021 Aug 6;20:1294-1304.	Original Article
7	Araumi A, Osaki T, Ichikawa K, et al.	第一内科	Urinary and plasma proteomics to discover biomarkers for diagnosing between diabetic nephropathy and minimal change nephrotic syndrome or membranous nephropathy	Biochem Biophys Rep. 2021 Aug 17;27:101102	Original Article
8	Watanabe K, Watanabe T, Otaki Y, et al.	第一内科	Gender Differences in the Impact of Plasma Xanthine Oxidoreductase Activity on Coronary Artery Spasm.	J Clin Med. 2021 Nov 26;10(23):5550.	Original Article
9	Otaki Y, Watanabe T, Konta T, et al.	第一内科	One-Year Change in Diastolic Blood Pressure and Aortic Disease-Related Mortality in a Japanese General Population Aged 50-75 Years.	Circ J. 2021 Nov 25;85(12):2222-2231.	Original Article
10	Otaki Y, Watanabe T, Konta T, et al.	第一内科	Impact of Chronic Kidney Disease on Aortic Disease-related Mortality: A Four-year Community-Based Cohort Study.	Intern Med. 2021;60(5):689-697.	Original Article
11	Arimoto T, Watanabe E, Kohno R, et al.	第一内科	Impact of a poor functional capacity on the clinical outcomes in patients with a pacemaker implantation -Results from the Japanese Heart Rhythm Society Registry -.	J Arrhythm. 2021;37:182-188.	Original Article
12	Machida H, Inoue S, Igarashi A, et al.	第一内科	Role of CC Chemokine Ligand 17 in Mouse Models of Chronic Obstructive Pulmonary Disease.	Am J Respir Cell Mol Biol. 2022 Jan(E Only) . Online ahead of print.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
13	Otaki Y, Watanabe T, Goto J, et al.	第一内科	Association between thrombolysis in myocardial infarction grade and clinical outcome after emergent percutaneous coronary intervention in patients with acute myocardial infarction who have suffered out-of-hospital cardiac arrest: the Yamagata AMI registry. Multicenter Study	Heart Vessels. 2022 Jan;37(1):40-49.	Original Article
14	Inoue S, Igarashi A, Morikane K, et al.	第一内科	Adverse reactions to BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccine in medical staff with a history of allergy.	Respir Investig. 2022 Mar;60(2):248-255..	Original Article
15	Ota H, Sato C, Igarashi A, et al.	第一内科	Spontaneously regressed granulomatosis with polyangiitis: A case report.	Case Reports Respir Investig. 2021 May;59(3):372-376.	Case report
16	Ishigaki D, Arimoto T, Kutsuzawa D, et al.	第一内科	Visualization of persistent superior vena cava isolation by cryoballoon ablation Case Reports	J Cardiol Cases. 2021 Jun ;24(6):300-302.	Case report
17	Furuyama K, Hirama N, Fukushima S, et al.	第一内科	A case of pulmonary tuberculosis with hemoptysis from a peripheral pulmonary aneurysm.	EXCLI J. 2021 Oct;20:1482-1485.	Case report
18	Hashimoto N, Tamura H, Otaki Y, et al.	第一内科	Perfusion Balloon Is Useful for Preventing Obstruction of Left Main Coronary Artery During Transcatheter Aortic Valve Implantation.	Int Heart J. 2022;63(1):163-167.	Case report
19	Kurokawa T, Arimoto T, Hashimoto N, et al.	第一内科	Contact dermatitis associated with wearable cardioverter-defibrillator.	J Cardiol Cases. 2021 Nov;25(5):266-268.	Case report
20	Shoichi Nishise, Yuji Takeda, Yasuhiko Abe, et al.	第二内科	Physiological heating augments the anti-inflammatory reactions during Granulocyte/Monocyte apheresis: A in vitro study	Ther Apher Dial. 2021 Oct; 25(5):671-680.	Original Article
21	Yu Sasaki, Yasuhiko Abe, Masakuni Shoji, et al.	第二内科	Reliability of self-reported questionnaire for epidemiological investigation of Helicobacter pylori eradication in a population-based cohort study	Sci Rep. 2021 Aug(E Only);11(1):15605.	Original Article
22	Yusuke Onozato, Yu Sasaki, Yasuhiko Abe, et al.	第二内科	Novel genomic alteration in superficial esophageal squamous cell neoplasms in non-smoker non-drinker females	Sci Rep. 2021 Oct(E Only);11(1):20150.	Original Article
23	Mizuno K, Haga H, Okumoto K, et al.	第二内科	Intrahepatic distribution of nerve fibers and alterations due to fibrosis in diseased liver	PLoS One. 2021 Apr 14;16(4):e0249556.	Original Article
24	Ishizawa T, Makino N, Kakizaki Y, et al.	第二内科	Biosafety of a novel covered self-expandable metal stent coated with poly(2-methoxyethyl acrylate) in vivo.	PLoS One. 2021 Sep(E Only) 24;16(9):e0257828. doi: 10.1371/journal.pone.025 7828.	Original Article
25	Toshikazu Kobayashi, Yuko Omori, Yusuke Ono, et al.	第二内科	Pathways for the development of multiple epithelial types of intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas	J.Gastroenterol. April 2021;56(6):581-592	Original Article
26	Naoko Mizumoto, Yu Sasaki, Yasuhiko Abe, et al.	第二内科	Small-bowel Capsule Endoscopic Features in Patients with Eosinophilic Gastroenteritis: Three Case Reports	Intern Med. 2021 Sep(E Only);60(18):2961-2965.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
27	Hiroki Goto, Yu Sasaki, Yasuhiko Abe, et al.	第二内科	Atypical jejunal follicular lymphoma with severe stricture	Clin J Gastroenterol. 2022 Feb(E Only);15(1):101- 106.	Case report
28	Yuya Suzuki, Tetsuya Ishizawa, Naohiko Makino, et al.	第二内科	A case of successful removal of a migrated fish bone in the bile duct after pancreaticoduodenectomy using overtube-assisted cholangioscopy	Clinical journal of gastroenterology. 2022 Feb(E Only);15(2):493- 499.	Case report
29	Suzuki S, Yamamoto M, Sanomachi T, et al.	腫瘍内科	Dexamethasone Sensitizes Cancer Stem Cells to Gemcitabine and 5- Fluorouracil by Increasing Reactive Oxygen Species Production through NRF2 Reduction	Life (Basel). 2021 Aug;11(9):885.	Original Article
30	Suzuki S, Yamamoto M, Sanomachi T, et al.	腫瘍内科	Lurasidone Sensitizes Cancer Cells to Osimertinib by Inducing Autophagy and Reduction of Survivin	Anticancer Res. 2021 Sep;41(9):4321- 4331.	Original Article
31	Murano C, Suzuki S, Nakamura S, et al.	腫瘍内科	Vimentin-positive and Alpha- fetoprotein-elevated Nuclear Protein of the Testis Midline Carcinoma: A Case Report and Review of the Literature	Intern Med. 2021 Nov;60(22):3645- 3649.	Review
32	Torii Y, Nanjo K, Toubai T, et al.	第三内科	A unique three-way Philadelphia chromosome variant t(4;9;22)(q21;q34;q11.2) in a newly diagnosed patient with chronic phase chronic myeloid leukemia: a case report and review of the literature	J Med Case Rep. 2021 May 25;15(1):285	Review
33	Saito Y, Noto K, Kobayashi R, et al.	精神科	Catatonia as the initial manifestation of dementia with Lewy bodies.	Am J Case Rep. 2021 Jul(E Only); 22: e932018.	Case report
34	Suzuki A, Kobayashi R, Shirata T, et al.	精神科	Changes in regional cerebral blood flow in chronic akathisia of a depressed patient before and after electroconvulsive therapy treatment.	Front Psychiatry. 2021 Sep; 12: 728265.	Case report
35	Hayashi H, Kobayashi R, Kawakats S, et al.	精神科	Comparison of the decreases in regional cerebral blood flow in the posterior cingulate cortex, precuneus, and parietal lobe between suspected non-Alzheimer's disease pathophysiology and Alzheimer's disease.	Psychogeriatrics. 2021 Sep; 21(5): 716-721.	Original Article
36	Noto K, Suzuki A, Shirata T, et al.	精神科	Oxytocin receptor polymorphism influences characterization of harm avoidance by moderating susceptibility to affectionless control parenting.	Brain Behav. 2021 Nov; 11(11): e2393.	Original Article
37	Kobayashi R, Morioka D, Suzuki A, et al.	精神科	Low-dose zolpidem-induced visual hallucinations in prodromal dementia with Lewy bodies.	Asian J Psychiatr. 2021 Dec(E Only); 66: 102908.	Case report
38	Kobayashi R, Kawakatsu S, Ohba M, et al.	精神科	Dopamine transporter imaging for frontotemporal lobar degeneration with motor neuron disease.	Front Neurosci. 2022 Feb(E Only); 16: 755211.	Original Article
39	Kanno M, Suzuki M, Tanikawa K, et al.	小児科	Heterozygous calcyclin-binding protein/Siah1-interacting protein (CACYBP/SIP) gene pathogenic variant linked to a dominant family with paucity of interlobular bile duct	J Hum Genet. 2022 Jan 28.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
40	Mitsui T, Makino S, Tamiya G, et al.	小児科	ALOX12 mutation in a family with dominantly inherited bleeding diathesis.	J Hum Genet. 2021 Aug;66(8):753-759.	Original Article
41	Yuya Ashitomi,Hiroshi Oshio,Mitsuhiro Yano,et al.	第一外科	Laparoscopic Proctocolectomy With Transanal Total Mesorectal Excision for Ulcerative Colitis	Cureus.2021 Nov 18;13(11).19720	Case report
42	Oshio H, Oshima Y, Yunome G, et al.	第一外科	Potential urinary function benefits of initial robotic surgery for rectal cancer in the introductory phase.	J Robot Surg. 2022 Feb;16(1):159-168.	Original Article
43	Motoi F	第一外科	Overcoming acquired chemo- resistance to gemcitabine: implications from the perspective of multi-modal therapy including surgery for pancreatic cancer.	Cancer Drug Resist.2021;4(E Only):881-884 (First online)	Review
44	Kuroda Y, Uchida T, Ohba E, et al.	第二外科	Aortic remodelling effect of the frozen elephant trunk technique on Stanford type A acute aortic dissection.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2021 May;32(5):789-791	Original Article
45	Nakai S, Uchida T, Kuroda Y, et al.	第二外科	Intraoperative hemodynamic deterioration caused by pre-existing mitral regurgitation in a patient with type A dissection: a word of caution.	Yamagata Med J. 2021 Aug(E Only):39(2):119- 122	Original Article
46	Uchida T, Yamashita A, Ishizawa A, et al.	第二外科	NT5E mutation in sisters who underwent aortic valve replacements for aortic stenosis.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2021 Aug;34(1):45-48	Original Article
47	Nakai S, Uchida T, Kuroda Y, et al.	第二外科	Spontaneous lumbar artery injury resulting in retroperitoneal hematoma mimicking abdominal aortic aneurysm rupture.	Ann Vasc Dis. 2021 Dec;14(4):384-387	Original Article
48	Takamori S, Ishikawa S, Suzuki J, et al.	第二外科	Differential diagnosis of lung cancer and benign lung lesion using salivary metabolites: A preliminary study.	Thorac Cancer. 2022 Feb;13(3):460-465	Original Article
49	Kuroda Y, Uchida T, Mizumoto M, et al.	第二外科	Exacerbation of severe constrictive pericarditis after prior inadequate pericardiectomy.	Cardiovasc J Afr . 2021 May-Jun;32(3):168-170	Case report
50	Kuroda Y, Uchida T, Hamasaki A, et al.	第二外科	Surgical treatment for a super-giant right coronary artery aneurysm induced by Kawasaki disease.	Braz J Cardiovasc Surg. 2021 Jun;36(3):433-435	Case report
51	Nakai S, Uchida T, Kuroda Y, et al.	第二外科	Surgical repair of deep femoral artery aneurysm complicated by deep vein thrombosis and pulmonary embolism.	J Vasc Surg Cases Innov Tech. 2021 Jun;7(3):408- 410	Case report
52	Suzuki J, Oizumi H, Takamori S, et al.	第二外科	Subpleural Lymphatic Permeation in Colorectal Lung Metastases.	Ann Thorac Surg. 2021 Jul(E Only);112(1):e81- e81	Case report
53	Takamori S, Oizumi H, Utsunomiya A, et al.	第二外科	Thoracoscopic removal of an azygos vein aneurysm with thrombus formation.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Sep;69(9):1335-1337	Case report
54	Matsuo S, Kobayashi K, Mizumoto M, et al.	第二外科	Unexpected migration of a sternal pin: A word of caution.	J Card Surg. 2022 Feb;37(2):453-454	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
55	Nakai S, Uchida T, Kuroda Y, et al.	第二外科	Endovascular repair for abdominal aortic aneurysm rupture with neurofibromatosis type 1.	Ann Vasc Surg. 2022 Feb;79:439.e1-439.e4	Case report
56	Kobayashi K, Uchida T, Hayashi J, et al.	第二外科	Simple Retrieval Technique of the Elephant Trunk by Partial Aortic Clamping.	Heart Lung Circ. 2021 Sep;30(9):e95-e97	Case report
57	Kobayashi K, Kuroda Y, Hayashi J, et al.	第二外科	Step-by-step aortic clamping technique for safe retrieval of the elephant trunk.	J Card Surg. 2021 Oct;36(10):3854-3856	Original Article
58	Kobayashi K, Uchida T, Yamashita A, et al.	第二外科	Creating an appropriate access for endovascular repair by replacing a dissected femoral artery in aortic dissection.	Interact cardioVasc Thorac Surg. 2021 Apr;32(3):492-494	Case report
59	Kobayashi K, Uchida T, Kuroda Y, et al.	第二外科	Large cardiac wall hematoma with rapid growth: a case report of a potentially catastrophic complication during cardiac surgery.	J Cardiothorac Surg. 2021 Apr;16(1):88-88	Case report
60	Kobayashi K, Uchida T, Kuroda Y, et al.	第二外科	Double left brachiocephalic vein in an adult patient who underwent cardiac surgery: a case report.	J Cardiothorac Surg. 2021 Aug;16(1):245-245	Case report
61	Kobayashi K, Uchida T, Kuroda Y, et al.	第二外科	Prosthetic Arch Branch Graft Injury by a Fractured Sternal Wire: A Word of Caution.	Heart Lung Circ. 2021 Aug;30(8):e91-e93	Case report
62	Kobayashi K, Kuroda Y, Mizumoto M, et al.	第二外科	Left coronary button aneurysm presenting with progressive enlargement after aortic root replacement.	J Cardiothorac Surg. 2021 Sep;16(1):250-250	Case report
63	Matsuda K, Kokubo Y, Kanemura Y, et al.	脳神経外科	Preoperative Apparent Diffusion Coefficient of Peritumoral Lesion Associate with Recurrence in Patients with Glioblastoma	Neurologia medico-chirurgica.2022Jan;62(1):28-34.	Original Article
64	Ito M, Sato S, Sonoda Y.	脳神経外科	A Patient with a Type I Split Cord Malformation and an Open Myelomeningocele without Advanced Lower Limb Paresis: A Case Report and a Review of the Literature	NMC Case Report Journal.2021 Apr ;8(1):75-78.	Case report
65	Igarashi K, Kuge A, Homma H, et al.	脳神経外科	Bioresorbable plate fracture after cranioplasty caused by head injury: a pediatric case	International Journal of Emergency Medicine.2021 Dec ;14(1):75.	Case report
66	Kawanami K, Kokubo Y, Sato S, et al.	脳神経外科	An increased oxygen extraction fraction in remote ischemic lesions after revascularization for moyamoya disease with a progression of posterior cerebral artery stenosis	Acta Radiologica Open 2021 Sep 29;10(9)(E Only).	Case report
67	Maruyama M, Moeinzadeh S, Guzman RA, et al.	整形外科	The efficacy of lapine preconditioned or genetically modified IL4 over-expressing bone marrow-derived mesenchymal stromal cells in corticosteroid-associated osteonecrosis of the femoral head in rabbits.	Biomaterials. 2021 Aug; 275: 120972.	Original Article
68	Maruyama M, Lin T, Kaminow NI, et al.	整形外科	The efficacy of core decompression for steroid-associated osteonecrosis of the femoral head in rabbits.	J Orthop Res. 2021 Jul; 39(7): 1441-1451.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
69	Maruyama M, Pan CC, Moeinzadeh S, et al.	整形外科	Effect of porosity of a functionally-graded scaffold for the treatment of corticosteroid-associated osteonecrosis of the femoral head in rabbits.	J Orthop Translat. 2021 May(E Only); 28: 90-99.	Original Article
70	Satake H, Naganuma Y, Shibuya J, et al.	整形外科	Unsuccessful Intervention of CT-assisted osteosynthesis for stress fractures of the hook of the hamate.	JBJS Case Connect. 2021 Jun; 11(2).	Case report
71	Satake H, Kura H, Naganuma Y, et al.	整形外科	Assessment of the severity of curly toe.	J Orthop Sci. 2021 Sep; S0949-2658(21)00267-0.	Original Article
72	Takakubo Y, Miyaji T, Ohta D, et al.	整形外科	Differences in subtrochanteric and diaphyseal atypical femoral fractures in a super-aging prefectural area: YamaCAFe Study.	J Bone Miner Metab. 2021 Jul; 39(4): 700-711.	Original Article
73	Takakubo Y, Wanezaki Y, Oki H, et al.	整形外科	Forefoot deformities in patients with rheumatoid arthritis: mid-to long-term result of joint-preserving surgery in comparison with resection arthroplasty.	Int J Environ Res Public Health. 2021 Oct; 18(21): 11257.	Original Article
74	Uno T, Takahara M, Maruyama M, et al.	整形外科	Qualitative and quantitative assessments of radiographic healing of osteochondritis dissecans of the humeral capitellum.	JSES Int. 2021 Mar; 5(3): 554-560.	Original Article
75	Uno T, Mura N, Yuki I, et al.	整形外科	Factors correlated with the optimal tension for arthroscopic rotator cuff repair using Grasper Tensioning Attachment.	J Shoulder Elbow Surg. 2021 Oct; S1058-2746(21)00753-9.	Original Article
76	Okamura K, Garber M, Harris JE	皮膚科	Gaining Insight into Vitiligo Genetics through the Lens of a Large Epidemiologic Study.	J Invest Dermatol. 2021 Apr; 141(4) :718-721.	Others
77	Saito T, Okamura K, Kosaki R, et al.	皮膚科	Impact of a SLC24A5 variant on the retinal pigment epithelium of a Japanese patient with oculocutaneous albinism type 6.	Pigment Cell Melanoma Res. 2022 Mar; 35(2): 212-219.	Case report
78	Naito S, Narisawa T, Kato T, et al.	泌尿器科	Clinical utility of head computed tomography scan during systemic therapy for metastatic renal cell carcinoma	Int J Urol. 2021 Apr(E Only); 28(4):450-456.	Original Article
79	Naito S, Kato T, Numakura K, et al.	泌尿器科	Prognosis of Japanese metastatic renal cell carcinoma patients in the targeted therapy era	Int J Clin Oncol. 2021 Oct; 26(10): 1947-1954.	Original Article
80	Nishida H, Fukuhara H, Nawano T, et al.	泌尿器科	Adjuvant heparinization before manipulation of artery reduces early failure in primary arteriovenous fistula for end-stage renal disease patients	Clin Exp Nephrol. 2021 Dec; 25(12): 1346-1353.	Original Article
81	Nishida H, Nawano T, Fukuhara H, et al.	泌尿器科	Outcomes of living kidney transplantation for mitochondrial disease patients	Transplant Proc. 2022 Mar; 54(2): 267-271.	Original Article
82	Fukuhara H, Nishida H, Nawano T, et al.	泌尿器科	Changes in Visceral and Subcutaneous Adipose Tissue and Body Composition in Kidney Transplant Recipients at 1, 3, and 5 Years After Kidney Transplant	Transplant Proc. 2022 Mar; 54(2): 351-354.	Original Article
83	Yamagishi A, Kurokawa M, Nishida H, et al.	泌尿器科	Prednisolone Treatment Is Effective for an Idiopathic Penile Abscess: A Case Report and Review	Am J Case Rep. 2021 Nov(E Only); 22: e933618.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
84	Nakamura M, Nishi K, Nishitsuka K.	眼科	Selection Criteria for Air Tamponade During Vitrectomy for Rhegmatogenous Retinal Detachment.	Clin Ophthalmol.2022 Mar;16:981-986.	Original Article
85	Nishitsuka K, Nishi K, Namba H, et al.	眼科	Intraoperative observation of a macular holes using optical coherence tomography.	Clinical Optometry.2021 Apr;13:113-118.	Original Article
86	Nishitsuka K, Nakamura M, Nishi K, et al.	眼科	Surgical Outcomes of Rhegmatogenous Retinal Detachment with Different Peripheral Vitreous-Shaving Procedures.	Clinical Ophthalmology.2021 May;15: 2197-2202.	Original Article
87	Nishitsuka K, Sugano A, Matsushita T, et al.	眼科	Surgical outcomes after primary Baerveldt glaucoma implant surgery with vitrectomy for neovascular glaucoma.	PLoS One.2021 Apr(E Only);16(4):e0249898.	Original Article
88	Nishitsuka K, Kaneko Y, Narumi M, et al.	眼科	Usefulness and Safety of Liquid-Based Cytology in Vitreous Pathology Following Vitrectomy.	Indian J Ophthalmol.2021 Oct-Dec;1(4):818-819.	Original Article
89	Hayashi S, Suzuki I, Inamura A, et al.	眼科	Effectiveness of the Spot Vision Screener in screening 3-year-old children with potential amblyopia in Japan	Jpn J Ophthalmol.2021 Jul; 65(4):537-545.	Original Article
90	Namba H, Sugano A, Murakami T, et al.	眼科	Ten-year longitudinal investigation of astigmatism: The Yamagata Study (Funagata)	PLoS One.2022 Jan(E Only);17(1):e0261324.	Original Article
91	Kaneko Y, Murakami T, Nishitsuka K, et al.	眼科	Effectiveness of baricitinib in refractory seronegative rheumatoid arthritis and uveitis:A case report	Frontiers in Medicine.2022 Jan(E Only); 8:764067.	Case report
92	Ito T, Furukawa T, Ohshima S, et al.	耳鼻咽喉科	Multicenter Study of Congenital Middle Ear Anomalies. Report on 246 Ears.	Laryngoscope. 2021(E Only); 131(7): E2323-E2328	Original Article
93	Koizumi Y, Mizutari K, Kawauchi S, et al.	耳鼻咽喉科	Y-27632, a ROCK inhibitor, improved laser-induced shock wave (LISW)-induced cochlear synaptopathy in mice.	Molecular brain. 2021; 14(1): 105-105.	Original Article
94	Hiraku S, Goro K, Hitoshi I, et al.	放射線治療科	Long-term clinical outcomes after 12-fractionated carbon-ion radiotherapy for localized prostate cancer	Cancer Science. 2021 Sep;112(9):3598-3606.	Original Article
95	Ono T, Yamamoto N, Nomoto A, et al.	放射線治療科	The Risk Factors for Radiation Pneumonitis After Single-Fraction Carbon-Ion Radiotherapy for Lung Cancer or Metastasis.	Cancers 2021 Jun(E Only), 13(13), 3229.	Original Article
96	Yamada M, Miyasaka Y, Kanai T, et al.	放射線治療科	Prediction of the minimum spacer thickness required for definitive radiotherapy with carbon ions and photons for pelvic tumors: an in silico planning study using virtual spacers.	J Radiat Res. 2021 Jul 10;62(4):699-706.	Original Article
97	Kaneko T, Suefuji H, Koto M, et al.	放射線治療科	Multicenter Study of Carbon-ion Radiotherapy for Oropharyngeal Non-squamous Cell Carcinoma.	In Vivo. 2021 Jul-Aug;35(4):2239-2245.	Original Article
98	Nagase S, Ohta T, Takahashi F, et al.	産科婦人科	Annual report of the Committee on Gynecologic Oncology,the Japan Society of Obstetrics and Gynecology:Annual patient report for 2017 and annual treatment report for 2012.	J Obstet Gynaecol Res. 2021 May;47(5):1631-1642.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
99	Ohta T, Nagase S, Okui Y, et al.	産科婦人科	Surveillance of radical hysterectomy for early-stage cervical cancer in the early experienced period of minimally invasive surgery in Japan.	Int J Clin Oncol. 2021 Dec;26(12):2318-2330.	Original Article
100	Nagashima M, Watanabe N, Okui Y, et al.	産科婦人科	Infectious sacroiliitis due to group A streptococcus infection during pregnancy: a case report.	J Med Case Rep. 2022 Feb 11;16(1):55.	Case report
101	Nagase S, Ohta T, Takahashi F, et al.	産科婦人科	Annual report of the Committee on Gynecologic Oncology, the Japan Society of Obstetrics and Gynecology: Annual Patient Report for 2018 and Annual Treatment Report for 2013	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Mar;48(3):541-552.	Others
102	Hayasaka T, Kawano K, Kurihara K, et al.	麻酔科	Creation of an artificial intelligence model for intubation difficulty classification by deep learning(convolutional neural network)using face images:an observational study	J Intensive Care.2021 May 6;9(1):38.	Original Article
103	Suzuki H, Narimatsu F, Nakane M, et al.	麻酔科	Perioperative presepsin as potential early predictor for postoperative infectious complications in cardiac surgery	Anaesthesiol Intensive Ther.2021;53(3):215-222.	Original Article
104	Kuroki M,Suzuki H,Kurota M,et al.	麻酔科	Perioperative management of a patient undergoing resection of interleukin-6 producing pheochromocytoma	JA Clin Rep. 2021 Jun 11;7(1):49.	Case report
105	Yusa K, Ishikawa S, Hemmi T, et al.	歯科口腔外科	Influences of compressive force and zoledronic acid on osteoblast proliferation and differentiation: an in vitro study	Applied sciences. 2021(E Only); 11(23):11273	Original Article
106	Ishikawa S, Sugimoto M, Konta T, et al.	歯科口腔外科	Salivary Metabolomics for Prognosis of Oral Squamous Cell Carcinoma	Front Oncol. 2022 Jan 5(E Only);11:789248. doi: 10.3389/fonc.2021.789248.	Original Article
107	Ishikawa S, Yusa K, Edamatsu K, et al.	歯科口腔外科	Reconstruction after hemimandibulectomy by a titanium mesh and particulate cancellous bone and marrow harvested from posterior ilia: a case report.	J Oral Implantol. 2021 Dec 26. doi: 10.1563/aaid-jo-i-D-21-00001. Epub ahead of print.	Case report
108	Iwakami A, Takada G, Fukuda N, et al.	形成外科	Application of nasal septal cartilage in a combined transorbital and transnasal approach for orbital wall reconstruction	Arch Plast Surg. 48(2): 217-218, 2021/4. DOI: https://doi.org/10.5999/aps.2020.01312	Case report
109	Kabasawa T., Ohe R., Aung NY., et al.	病理診断科	Potential role of M2 TAMs around lymphatic vessels during lymphatic invasion in papillary thyroid carcinoma.	Sci Rep. 2021 Jan 13;11(1):1150.	Original Article
110	Ohe R., Yang S., Yamashita D., et al.	病理診断科	Pathogenesis of follicular thymic hyperplasia associated with rheumatoid arthritis.	Pathol Int. 2022 Apr;72(4):252-260.	Original Article
111	Ohe R., Kabasawa T., Utsunomiya A., et al.	病理診断科	Nodal histiocytic sarcoma with prominent eosinophilic infiltration: expression of eotaxin-2 on tumor cells.	Diagn Pathol. 2021 Jan 12;16(1):6.	Case report

計111件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	---------------------------	----	---------------	------

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または et al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内 審査の流れについて記載。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 0 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの定義、委員会の設置、実施方法等について。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」及び倫理審査委員会への申請に関する説明。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

卒後臨床研修修了後の専門医取得に必要な高度先進医療の研修は、大学病院が最も得意とするところである。山形大学では、各診療科が専門医に要求される研修内容に対応して緻密に組み立てた独自の専門医養成プログラムを有している。

また、山形大学には県内外の主要な教育病院及び山形県と合同で組織する「蔵王協議会」という組織があり、これにより大学附属病院と関連病院が有機的に結びついた研修が可能である。さらに、我が国の医学部で最初に導入した大学院社会人選抜枠を最大限に利用することにより、市中病院に勤務しながら大学院生として専門医取得のための研修や博士号取得のための研究を行うことができる。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	194 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
上野 義之	内科	教授	34年	
大谷 浩一	精神科	教授	40年	
三井 哲夫	小児科	教授	33年	
元井 冬彦	外科	教授	28年	
園田 順彦	脳神経外科	教授	29年	
菅原 正登	整形外科	講師	19年	
鈴木 民夫	皮膚科	教授	37年	
土谷 順彦	泌尿器科	教授	33年	
西塚 弘一	眼科	准教授	18年	
欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	教授	34年	
鹿戸 将史	放射線科	教授	19年	
永瀬 智	産婦人科	教授	30年	
川前 金幸	麻酔科	教授	39年	
中根 正樹	救急科	准教授	28年	
高木 理彰	リハビリテーション科	教授	35年	
二口 充	病理	教授	27年	
渡辺 昌文	総合診療	教授	32年	
福田 憲翁	形成外科	准教授	21年	
飯野 光喜	歯科口腔外科	教授	38年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

ME 機器セミナー I : シリンジポンプ・輸液ポンプ・重症監視モニターの取り扱いについて

・研修の期間・実施回数

令和 3 年 5 月 2 7 日、2 8 日・2 回

・研修の参加人数

看護師 : 5 4 名

薬剤師・技師（士）等 : 4 名

・研修の主な内容

ME 機器セミナー II : 人工呼吸器、N P P V、S C D、メラサキューム、除細動器、心電計
の取扱いについて

・研修の期間・実施回数

令和 3 年 6 月 2 1 日、2 2 日・2 回

・研修の参加人数

看護師 : 5 6 名

薬剤師・技師（士）等 : 2 名

・研修の主な内容

ME 機器セミナー中級編 : シリンジポンプ、輸液ポンプ、人工呼吸器、N P P V のトラブル
シューティング

・研修の期間・実施回数

令和3年10月11日～13日 3回

・研修の参加人数

看護師：51名

・研修の主な内容

緊急気道管理に関する院内講習会（講義編）：気道トラブルの危険性と予防法、緊急性の判断・低酸素脳症に関する基礎知識・循環器疾患による呼吸停止・気管切開の適応と気管切開後の気道管理・困難気道アルゴリズムと新しい気道確保デバイスi-gelについて

・研修の期間・実施回数

令和4年1月7日・1回

・研修の参加人数

看護師：54名

薬剤師：2名

臨床検査技師：5名

・研修の主な内容

緊急気道管理に関する院内講習会（実技編）：エアウェイスコープ、ファイバースコープ、クイックトラック、i-gelの使用方法

・研修の期間・実施回数

令和4年1月28日・1回

・研修の参加人数

看護師：20名

薬剤師：1名

・研修の主な内容

静脈注射教育プログラム講習会：静脈注射の注意点、静脈注射を安全に行うための解剖生理及び近年の訴訟事例、職業感染について、静脈注射をより安全・確実に—その知識と手技—

・研修の期間・実施回数

令和3年6月30日・1回

・研修の参加人数

看護師：51名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 佐藤 慎哉
管理担当者氏名	薬剤部長 山口 浩明、看護部長 斉藤 律子、 総務課長 篠塚 清幸、医事課長 平 昭彦、感染制御部 森兼 啓太

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	ファイルにて年度毎に分類、保管している。
		各科診療日誌	看護部	ファイルにて年度毎に分類、保管している。
		処方せん	薬剤部	紙面にて入院、外来別、月毎に分類、保管している。
		手術記録	医療情報部 (診療記録室)	カルテ等病歴資料やエックス線写真は電子カルテ上で共にコンピュータによる集中管理を行っているが、一部の診療科においては、紙カルテで運用している。 手術記録や紹介状等の文書はスキャンし、タイムスタンプを取得の上、電子データを保存し原本としている。 貸出を受けた紙診療録は病院外に持ち出すことはできない。ただし、事前に所定の院外借用申請書を提出し、許可を受けた資料袋の病院外借用の場合は、その限りではない。
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
紹介状				
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書				
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	各担当でファイルにて年度毎に分類、保管している。
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	各診療科	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一條の十第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	ファイルにて年度毎に分類、保管している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
		医療機関内における事故報告等	医事課	

		の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
--	--	------------------------------	--

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	各担当でファイルにて年度毎に分類、保管している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	MEセンター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医事課	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課	各担当でファイルにて年度毎に分類、保管している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		監査委員会の設置状況	医事課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課	
		職員研修の実施状況	医事課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課	
管理者が有する権限に関する状況	医事課			
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医事課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医事課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	各担当でファイルにて年度毎に分類、保管している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター 医事課	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課	各担当でファイルにて年度毎に分類、保管している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		監査委員会の設置状況	医事課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課	
		職員研修の実施状況	医事課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課	
管理者が有する権限に関する状況	医事課			
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医事課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医事課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6) 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	病院長 佐藤 慎哉
閲覧担当者氏名	医学部総務課長 篠塚 清幸
閲覧の求めに応じる場所	医学部管理棟第一会議室
閲覧の手続の概要 閲覧請求者は、閲覧申込書に必要な事項を記入し、必要書類(資格・身分を証明する証明書など)を添えて、医学部総務課庶務担当に提出することで、閲覧の請求をすることができる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 0 件	
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 本院における医療の安全管理に関する基本的な考え方 (2) 本院における医療の安全管理のための組織及び体制に関する基本的事項 (3) 本院において医療の安全管理のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針 (4) 本院における医療事故の報告等、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 本院における医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院の医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 本院の患者からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他、本院の医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全の指針に関すること (2) 医療事故に係る体制に関すること (3) 医療事故又はその恐れがある事例が発生した場合の原因調査、分析、事故の判定（影響度レベル及び過失の有無）並びに対応策に関すること (4) 分析結果を活用した安全管理を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること (5) 改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること (6) 入院患者が死亡した場合及び通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして、病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における原因調査、分析等並びに報告の実施状況の確認及び病院長への確認結果の報告に関すること (7) 報告の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること (8) そのほかの安全管理に関する必要な事項 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで、個々の従業者の安全に対する意識・安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識の向上等を図る内容 (2) 当院における具体的な事例等を取り上げた内容 (3) 当院全体に共通する安全管理に関する内容 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) あらかじめ定められた手順、事故収集の範囲等に関する規定に従い事例を収集・分析することで、当院における問題点を把握し、組織としての改善策の企画立案及びその実施状況を評価し、これらの情報を共有する (2) 重大な事故の発生時には、速やかに管理者へ報告する。また、改善策については、背景要因及び根本原因を分析し、検討された効果的な再発防止策を立案する。 	

--

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 本院における院内感染対策に関する基本的な考え方</p> <p>(2) 本院における院内感染対策のための委員会及びその他の組織に関する基本的事項</p> <p>(3) 本院における院内感染対策のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針</p> <p>(4) 本院における感染症の発症状況の報告に関する基本方針</p> <p>(5) 本院における院内感染発生時の対応に関する基本方針</p> <p>(6) 本院の患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</p> <p>(7) その他、本院の院内感染対策推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、管理者に報告する。</p> <p>(2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知徹底を図る</p> <p>(3) 感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>(1) 院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで個々の従業者の院内感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での技能やチームの一員としての意識向上等を図る内容</p> <p>(2) 病院の実情に即した内容</p> <p>(3) 病院全体に共通する院内感染に関する内容</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 毎月1回、院内の感染状況のサーベイランスを実施し、感染対策委員会・感染制御部会で報告。感染症の発生動向を共有し、院内感染の予防及びまん延の防止を図る。 また、ICTラウンド時等の重点指導項目として活用する。(MRSA、多剤耐性緑膿菌等主要検出菌10数種類を週報として把握)</p> <p>(2) 院内感染対策の指針に即した院内感染対策マニュアル「院内感染の手引き」を整備し、各部署への配付並びに院内ネットワークにより電子媒体で提供している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年17回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する事項 (2) 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 (3) 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する事項 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医薬品安全管理責任者及び担当者に関する事項 (2) 本院で用いる医薬品の採用・購入に関する事項 (3) 本院における医薬品の管理に関する事項 (4) 本院の患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 (5) 本院の患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 (6) 本院における医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 (7) 本院と他施設との連携に関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： <ul style="list-style-type: none"> 適応外使用 <ul style="list-style-type: none"> エルドハイムチェスター病に対するベムラフェニブ(ゼルボラフ®錠240mg) 静脈奇形及び動脈奇形に対する硬化療法(エトキシスクレロール®1%注射液) 禁忌使用 <ul style="list-style-type: none"> 塩化カリウム徐放錠とエプレレノン(セララ®錠25mg)の併用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 公的機関・行政機関からの医薬品情報収集と院内周知 <ul style="list-style-type: none"> 安全性速報(ジョイクル®関節注 30mgによるショック、アナフィラキシーについて)の情報収集と院内周知 需要急増した医薬品(デキサメタゾン製剤)の適正使用に関する院内周知 (2) 製造販売業者からの医薬品情報の収集と院内周知 <ul style="list-style-type: none"> プロタミン製剤(プロタミンによるショックの発現について)の情報収集と院内周知 (3) 新型コロナウイルス感染症治療薬の院内運用マニュアル策定と院内周知 <ul style="list-style-type: none"> ・ ロナプリーブ点滴静注セット ・ ゼビュディ点滴静注液500mg ・ ラゲブリオカプセル200mg ・ ロナプリーブ注射液セット 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療機器の有効性・安全性に関する事項 (2) 医療機器の使用方法に関する事項 (3) 医療機器の保守点検に関する事項 (4) 医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項 (5) 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 人工心肺装置及び補助循環装置については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 (2) 人工呼吸器については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 (3) 血液浄化装置については始業時、使用中、終了時の点検及び定期点検(年1回)を実施している。 (4) 除細動装置については、定期点検(年1回)を実施している。 (5) 閉鎖式保育器については、定期点検(年1回)を実施している。 (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置については、始業、終業点検及び定期点検(年4回)を実施している。 (7) 診療用放射線照射装置については、始業、終業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 (8) シリンジポンプ、輸液ポンプについては定期点検(年1回)を実施している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療機器添付文書等の整理 (2) 医療機器の不具合や健康被害等に関する情報を病院長へ報告 (3) 医療安全管理部との情報共有や合同勉強会の開催 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者が(副病院長(医療安全担当)が、医療安全管理部、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p> 医薬品情報室において情報を収集・管理。 随時病棟等へ文書で周知。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p> 未承認新規医薬品評価部門で審議。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：医療安全管理部，職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：山形大学医学部附属病院診療録記載要項及び山形大学医学部附属病院の医療に関する安全管理指針(説明と同意)に基づき、診療録等の記載内容確認を定期的に行い、必要に応じて診療録の記載方法や内容の指導を行う。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>山形大学医学部附属病院診療録記載要項に基づき、診療録記載の実施状況確認を定期的に行っている。また、入院時、診察時の診療録記載、及び退院サマリ・入院診療計画書・手術記録・カンファレンス時の記載内容等について、記載方法や内容について指導を行う。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（6）名、専任（0）名、兼任（18）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（6）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（5）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）医療事故等防止対策委員会の会議に関する事、その他庶務に関する事 （2）インシデント報告の分析及び医療事故防止対策の策定に関する事 （3）安全管理のための研修、啓発普及、教育等の企画立案及び実施に関する事 （4）事故等に関する診療録等への記録の記載の確認・指導に関する事 （5）事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認・指導に関する事 （6）事故等の原因究明についての確認・指導に関する事 （7）医療安全管理に係る連絡調整に関する事 （8）医療安全管理に資する診療状況の把握及び職員の医療安全に関する意識の向上の確認に関する事 （9）その他医療安全対策の推進に関する事 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p> <p>平時からのモニタリングの具体例： 診療内容のモニタリングについては、肺血栓塞栓症予防策指示書や転倒の危険度チェックシート等の使用状況を確認しており、必要に応じてチェックシートの内容を再検討している。また、手術部のオカレンスレポート件数及びその中からインシデントとして報告された件数とその内容を確認している。 医療安全の認識についてのモニタリングは、全職員の医療安全に関する研修の受講状況等により確認を行っている。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p>	

・活動の主な内容：

令和3年度は計4件の申請があり、申請の都度部門会議及び評価委員会を開催し審議した。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（14件）、及び許可件数（12件）

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

令和3年度は計14件（うち2件取り下げ）の申請があり、定例の評価委員会及び部門会議を開催し審議した。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年386件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年0件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- (1) 安全管理の指針に関すること
- (2) 医療事故に係る体制に関すること
- (3) 医療事故又はそのおそれがある事例が発生した場合の原因調査、分析、事故の判定（影響度レベル及び過失の有無）並びに対応策に関すること
- (4) 分析結果を活用した安全管理を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること
- (5) 改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること
- (6) 入院患者が死亡した場合及び通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における原因調査、分析等並びに報告の実施状況の確認及び病院長への確認結果の報告に関すること
- (7) 報告の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること

(8) その他安全管理に関する必要な事項
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：札幌医科大学附属病院）・無） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：秋田大学医学部附属病院）・無） ・技術的助言の実施状況 <p>昨年度は、訪問調査が中止とされ、紙面調査のみとなった。実施の具体的内容についての質問はあったが、疑義が呈されたものはなかった。</p>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <p>患者からの相談については、医療相談室で対応し、安全管理に係る相談についても、医療安全管理部及び関係部署と連携の上、対応するとともに管理者に報告している。</p>

<p>⑫ 職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <p>令和3年4月8日：インフォームド・コンセントについて 令和3年4月1日：医療におけるリスクマネジメント 令和3年5月27日、28日：シリンジポンプ・輸液ポンプ・重症監視モニターの取扱いについて 令和3年6月21日、22日：人工呼吸器、NPPV、SCD、メラサキューム、除細動器、心電計の取扱いについて 令和3年10月11日、12日、13日：シリンジポンプ、輸液ポンプ、人工呼吸器、NPPVのトラブルシューティング</p>

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

<p>⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <p>管理者：令和3年12月23日 2021年度特定機能病院管理者研修 （公益財団法人日本医療機能評価機構）</p>
--

医療安全管理責任者：令和4年1月19日 2021年度特定機能病院管理者養成研修
(公益財団法人日本医療機能評価機構)

医薬品安全管理責任者：

令和3年11月12日 令和3年度 医薬品安全管理責任者等講習会
(一般社団法人 日本病院薬剤師会)

令和4年2月14日 2021年度特定機能病院管理者研修
(公益財団法人日本医療機能評価機構)

医療機器安全管理責任者：令和3年11月22日 2020年度特定機能病院管理者研修
(公益財団法人日本医療機能評価機構)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価「一般病院3 (3rdG:Ver. 2.0)」認定

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

上記評価受審に関しては、病院HPで公表している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 医師免許を有している者 (2) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 (3) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (有) ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公表の方法 本学のホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有) 無		
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 本院の運営方針及び理念に関する事項 (2) 本院の中期目標、中期計画及び年度計画に関する事項 (3) 本院の予算及び決算に関する事項 (4) 本院の医師、看護師等職員の人事に関する事項 (5) 本院の医師、看護師等職員の負担軽減及び処遇改善に関する事項 (6) その他病院長が必要と認める重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 病院運営委員会に報告 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有) 無) ・公表の方法 本学のホームページに掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
佐藤 慎哉	○	医師	病院長
根本 建二		医師	理事 (病院担当)
上野 義之		医師	学部長
高木 理彰		医師	副病院長
土谷 順彦		医師	副病院長
渡辺 昌文		医師	副病院長
鈴木 民夫		医師	副病院長
欠畑 誠治		医師	副病院長
斉藤 律子		看護師	副病院長
飯野 光喜		歯科医師	歯科口腔外科長
村上 正泰		教員	医学部教授
山口 浩明		薬剤師	薬剤部長
阿部 幸治		事務職員	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
本学のホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
学長から委任される業務執行権限内容。
 - （1）予算の執行及び決算に関する業務
 - （2）施設・設備等の管理に関する業務
 - （3）他の全学的事項を定めた規則で規定されている業務
 - （4）その他本法人の経営に関する業務のうち、学長が必要と認める業務
 - （5）医療法に定める医学部附属病院の管理業務
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - （1）副病院長：教育・医療安全
 - （2）副病院長：経営・財務
 - （3）副病院長：広報・診療
 - （4）副病院長：外部評価
 - （5）副病院長：国際化・感染制御
 - （6）副病院長：患者サービス・医療の質管理
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

特定機能病院管理者研修への参加。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること (2) 必要に応じ、学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法：本学のホームページに掲載 <p>https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/iryouanzen/</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗谷 義樹	地方独立行政 法人山形県・酒 田市病院機構 理事長	○	医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	有 (無)	1
阿彦 忠之	山形県健康福 祉部医療統括 監		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有 (無)	2
根本 建二	山形大学理事 (病院担当)		病院関係業務を 担当する理事	(有)・無	3
西岡 正樹	山形大学学術 研究院准教授 (人文社会科学 部担当)		医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	(有)・無	1
佐多 和子	NPO 法人あい在 宅福祉サービ ス理事		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有 (無)	2
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監事による定期監査及び臨時監査
監査室（監事及び会計監査人と連携）による定期監査及び臨時監査

・ 専門部署の設置の有無（有・無）

・ 内部規程の整備の有無（有・無）

・ 内部規程の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法

公表の方法 本学のホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人山形大学経営協議会を設置している ・ 会議体の実施状況（ 年7回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ）（ 年7回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ） ・ 公表の方法 本学のホームページに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称： 国立大学法人山形大学経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
玉手 英利	学長	○	有
飯塚 博	理事		有
出口 毅	理事		有
矢作 清	理事		有
根本 建二	理事		有
花輪 公雄	理事		有
瀨瀨 晃	理事		有
佐藤 慎哉	附属病院長		有
相澤 益男	国立研究開発法人 科学技術振興機構 顧問		無
井上 弓子	高島電機株式会社 代表取締役会長		無
小林 裕明	株式会社山形新聞社 締役論説委員長		無
里村 正治	フィディアホールディングス株 式会社 名誉顧問		無
鈴木 道子	米沢栄養大学・米沢女子短期大学 名誉教授		無
西海 和久	株式会社ブリヂストン エクスターナルアドバイザー		無
萩原 なつ子	立教大学 21世紀社会デザイン研 究科 研究科委員長		無
長谷川 真理子	国立大学法人総合研究大学院大 学 学長		無
吉村 美栄子	山形県知事		無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 ホームページへ掲載、院内の各部署へ通知を送付